

めぐみの森だより

2024年 9月号



社会福祉法人 雲柱社 めぐみの森保育園

☎ 03-3480-4448

「やさしいのね」

NHKの朝ドラを観ている方はいらっしゃいますか？内容を説明すると長くなってしまいますので、しませんが…

その朝ドラのワンシーン…主人公の子どもが「ケガをしたひとにもつ、もってあげたんだあ」と主人公である母親に話しをし、その話を聞いた母親は微笑みながら「優しいのね」とその子を褒めるように言いまいした。しかしその子どもは少し不思議な表情で「こまっているひとがいるなら、たすけるのがふつうでしょ」と答えていました。

ある日の朝、Kさんがお母さんと別れるのが悲しく、「ママがいいいい」と言いながら泣いていました。何とかお母さんと別れ、それでも涙は止まりません。私の膝の上にしばらく座っていると、井形ブロックで遊んでいたHさんが「Kさん、ないているの？」と声を掛けてきました。泣いている理由を私がHさんに説明すると、「ふ〜ん」と興味なさそうに（私がそう見えただけなのだと後になって気づきます）、遊びに戻って行きました。それからしばらくするとまたHさんがKさんの所にやってきて、「Kさん、ないてないね」と先ほど声を掛けてきた声色よりも少し高めの声色で、声を掛けてきました。

「Hさん、心配してくれてありがとう」

「Hさんが声を掛けてくれたから泣きやんだのかな？」



Hさんは私の言葉には無反応、そして私の膝の上にいるKさんとはといえば、近くにあった井形ブロックを手に取り「バス、すきなんだ」と言いながら遊び始め、HさんはKさんが遊び始めたことを気にすることなく、遊びの続きを始めていました。

「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい(ルカ6・31)」

という聖書の言葉があります。この言葉の意味を大人の私は考え、自分なりに理解しそして納得して行動することがあります。しかし子どもたちはどうでしょう？何千年も前に書かれた聖書の言葉の意味なんて考えなくたって、教えられなくたって、当たり前のように子どもたちは相手のしてほしいことをしているのです。朝ドラの子どもも、今回のHさんも…。

「優しいのね」と本当に朝ドラの主人公は思っていたとは思いますが、“優しい子”だと“良い子”だと大人の私たちが思いたいだけなのかもしれません。子どもからしたら、「なにってんの！あたりまえなんだから！けがをしているひとにもつをもつのも、ないているともだちにこえをかけるのも…(ため息)」それが子どもなのだと思います。

そんな子どもたちだからこそ、私たち大人は一人の人として子どもたちに接し、子どもの声に耳を傾け、子どもの表情を見守り、そして子どもの想いをくみ取っていき、子どもから学んでいければと改めて思いました。

でもでも、私たち大人も自分たちを卑下することはありませんよ。だって、私たちも以前は“立派な子ども”やってきましたから(笑)。

記:主任 湯澤伸樹

《今月のおすすめ紹介》



この夏は“大相撲の夏場所”から始まり、皆さんも観たであろう“パリオリンピック”そしてオリンピックと並行して“甲子園”そしてそして、“パリパラリンピック”…とにかくスポーツを観るのが好きすぎて、楽しすぎて、興奮の夏でした。ちなみに、来年行われる陸上の世界選手権のチケットを一年前にゲット済みです。

持論なのですが、人は必ずオリンピックに出られる種目の才能を持っていると思っています。ただただ、その種目に出会わなかっただけで…自分も馬術に出会っていたら今頃“初老ジャパン”の一員だったかもしれません。(意味のわからない方々すみません)